

歴史的価値の高い通信機器を一堂に展示

UECコミュニケーション ミュージアム

東京都調布市



▲電気通信大学の東10号館にある「UECコミュニケーションミュージアム」

◀入口すぐにはインマルサット (Inmarsat) 通信システムやGMDSS (Global Maritime Distress and Safety System: 全世界的な海上遭難・安全システム) の展示がある

第1展示室



▲火花放電を利用した初期の無線機から第二次世界大戦当時の軍用無線機、大型の海上無線機、テレビ局のアナログ送信機などを展示



▲商船の通信室をイメージした展示。実際に船舶無線の受信も可能

「JJY」で使われていた標準電波制御信号発生装置▶



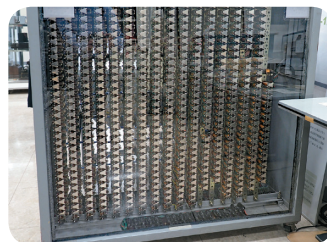
第2展示室



▲電信・電話機、オーディオ、ラジオ、テレビ、コンピューターなど各種の機器を展示



▲カシオ計算機が1962 (昭和37) 年に作った、リレー計算機「Casio AL-1」



◀約500個のリレーを使用。計算結果はニキシー管に表示

東京都調布市にある国立大学法人 電気通信大学内の一角に、歴史的な通信機器などの保存を目的とした展示施設「UECコミュニケーションミュージアム」があります。

電気通信大学は1918(大正7)年に前身の無線電信講習所が発足し、昨年で100周年を迎えましたが、創立80周年の1998(平成10)年に「歴史資料館」が誕生し、2008(平成20)年に90周年記念事業として現在の建物(東10号館)が作られ、名称が「UECコミュニケーションミュージアム」と改められました。

館内は第1から第7まで7つの展示室に分けられ、歴史的価値のある産業遺産級の通信機器から真空管な

どの電子デバイスまでテーマ別に展示され、来場者は間近に見ることができます。

大学で教育や研究に使用された機器を始め、企業や団体、個人からの寄贈品など、収蔵品は膨大ですが、例えば日本の標準電波を作り出してきた短波帯の「JJY」の機器や、国内の無線電報サービスの要となっていた長崎無線局「JOS」の送信機、東京タワーに設置されていたアナログテレビジョンの送信装置といった大型機器には圧倒されます。アマチュア無線関連では、東京・巣鴨にあった「JARL展示室」から寄託された所蔵品が豊富で、黎明期にアマチュアスピリットを発揮して作られた送受信機などを見ることができます。

第3展示室



▲J2HR/JA1BHR 安川氏が収集した通信機器などを展示



▲世界初のダイバーシティラジオ
「HALLICRAFTERS
SKYRIDER DIVERSITY
DD-1」(1938年製)

歴史的な無線通信機を展示▲

第4展示室



▲気象衛星「ひまわり」の受信装置や気象庁に設置されたデータ処理装置などを展示

第5展示室



▲無線電信講習所の教室を再現。モールス信号の送受信など授業の様子を体験できる

第6展示室



▲20世紀初頭に発明した最初期の2極管など、貴重な真空管を一堂に展示

第7展示室



▲同大学で発明された技術を使った機器(核磁気共鳴装置や電波時計など)を展示

取材・撮影協力：UECコミュニケーションミュージアム

アマチュア無線の歴史遺産コーナー

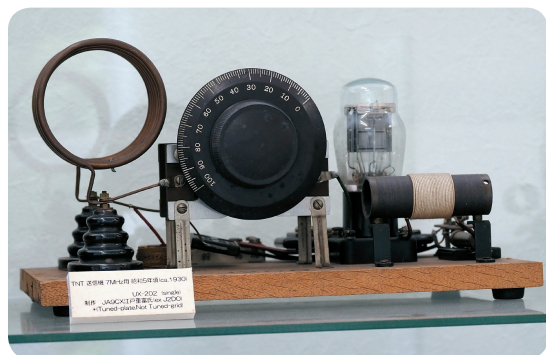
UECコミュニケーションミュージアム2階の長い通路には、ショーケースとラックが配置され、「アマチュア無線の歴史遺産コーナー」が設けられています。

ここにはJARLが寄託した、黎明期のアマチュア無線家による手作り品をはじめ、メーカーがアマチュア無線家向けに製造販売した初期の製品や部品などを展示。これらは無線通信の歴史を語る上でも貴重な史料となっています。その一部をここで紹介しましょう。

アマチュア無線の歴史遺産コーナー▶



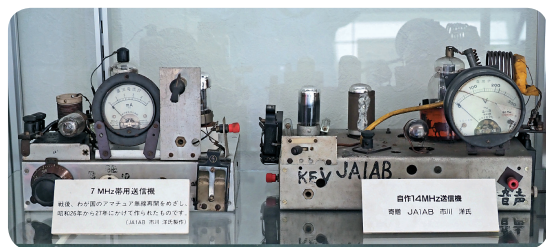
▲3つ並んだ大型ショーケースには黎明期から戦後の再開期にかけての自作機器などが展示されている



▲1930 (昭和5) 年ごろの7MHz用送信機



▲J4CT/JH4GGN 堀野氏が1935 (昭和10) 年に製作した7/14MHzCW送信機



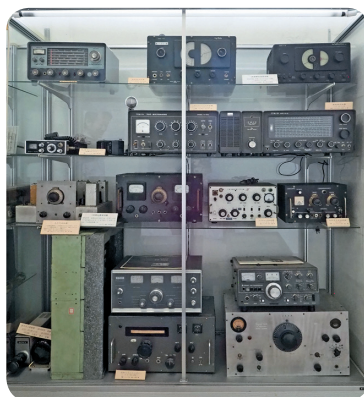
▲アマチュア無線再開を目指し、JA1AB 市川氏が1951 (昭和26) 年から1952 (昭和27) 年にかけて作った7MHz用送信機と14MHz送信機



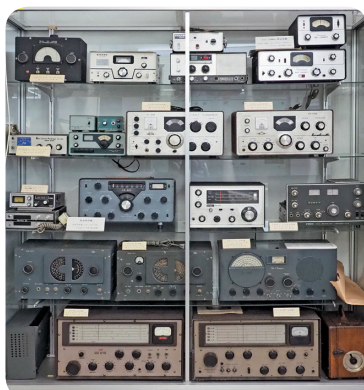
▲昭和初期に自作されたラジオ



初期の144MHz帯メーカー製トランシーバー。
左はトリオ (現・JVCケンウッド) のAM機、TR-2。
右上は井上電機製作所 (現・アイコム) のFDFM-2▶



▲こちらのショーケース3基には1950～1960年代の無線機器や電鍵などを展示



▲トリオ、富士製作所、三和無線測器研究所などの受信機、送信機が並ぶ

▲HamKit (湘南高周波研究所) の50MHz送信機、TXV-24

▲1950～1960年代の無線機器の展示(続き)



▲戦前から戦後にかけての、さまざまな電鍵も展示されている



▲1970年代のアマチュア無線局のシャック再現



▲2基のショーケースを使って、アマチュア無線家が収集した真空管も展示

UEC コミュニケーションミュージアム

- ・住所：182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1 国立大学法人 電気通信大学内
- ・交通：京王線「調布」北口 徒歩6分

- ・開館時間：12時30分から16時まで
- ・開館日：火、水、木、金、土(祝日等を除く)
※年末年始は休館、その他、学事予定の都合により臨時休館することがあります。
- ・ホームページ：<https://www.museum.uec.ac.jp/>